

2014年度 第3回 動物実験委員会議事録

日 時 2014年10月23日 木曜日 15:41～16:12
場 所 小会議室
出席者 工藤、尾上、清末、浅野、田川
陪席者 小川

審議事項

1. 動物実験に係る緊急時への備えと対応について

工藤委員長から次のとおり説明がなされた。

- ・ 2014年3月に文部科学省ライフサイエンス課によって「研究機関等における動物実験に係る体制整備の状況等に関する調査」が行われた。
- ・ その際、緊急時に対応するための計画を作成しているかの問いに、「作成する予定である」と回答した。
- ・ その後、8月にライフサイエンス課から、「予定している」という現状では基本指針等の遵守が不十分であるので、10月末までに機関内管理体制の整備を完了させ、文部科学省まで報告するように依頼があった。

引き続き、尾上副委員長から、別紙（資料1）に沿って説明がなされた。

- ・ 動物実験に係る緊急時への備えと対応について、他大学の資料を参考にし、本学の動物実験の規模等の実情を考慮しながら案を作成した。
- ・ 緊急時への備え、緊急時の対応及び緊急時の体制（緊急連絡の流れ）について、それぞれ必要な項目を設定している。
- ・ 文部科学省の説明会では、基本指針等の遵守が不十分な機関が多いと、動物愛護団体からの要望等によって、届出制や登録制等の規制導入へとつながる可能性があり、その場合、研究環境の悪化につながることも考えられるとの説明があった。
- ・ 機関内規程に付随したこのような手続等をできるだけ公開しておくことも重要である。

意見交換の後、挙手による採決の結果、全員賛成で本件は承認された。

工藤委員長から次のことが述べられた。

- ・ 参考資料として、公私立大学実験動物施設協議会（公私動協）が作成した『「緊急時の対応マニュアル」策定のための資料（項目）』を配付している。
- ・ 本学の動物実験の規模等の実情を考えると、すべての項目を網羅する必要はないが、今後、点検評価を行う際に参考とし、より適切な体制整備を図ることとしたい。
- ・ 文部科学省ライフサイエンス課長宛に、機関内の体制整備が完了した旨の報告を行うとともに、承認された「動物実験に係る緊急時への備えと対応について」は、公式ウェブサイトにおいて公開する。

2. 公私立大学実験動物施設協議会への入会について

工藤委員長から、別紙（資料2）に沿って説明がなされた。

- ・ 公私立大学実験動物施設協議会（公私動協）は、公立及び私立大学等に設置する共同利用の実験動物施設（以下「施設」という。）の連携を促し、施設に共通する管理運営上の問題及び実験動物並びに動物実験に関する諸問題を解決し、適正な動物実験による教育と研究の進展を図ることを目的としている（会則第2条）。
- ・ 現在、121施設（109大学・機関）が入会している。
- ・ 公私動協に加入するメリットは次のとおり。
 - ① 動物実験に関する施設の懸案事項を相談し、アドバイスを受けることができる。
 - ② 動物実験に関する最新の情報を入手することができる。
 - ③ 動物実験に関する適正な実験手技を習得することができる。
 - ④ 実験動物管理者の講習を受講することができる。
 - ⑤ 外部検証（第三者評価）を受けることができる。
 - ⑥ 他学の動物実験関係者と交流を持つことができる。
- ・ 会員専用ウェブサイトには、緊急災害マニュアルや災害対策マニュアルの参考例も掲載されている。
- ・ 会費は、年額3万円である。
- ・ 本学も入会したい。

尾上副委員長から、加入するメリットのうち、特に①、③、④及び⑤の項目は本学にとって重要であると考える旨の追加説明がなされた。

以上の説明の後、挙手による採決の結果、全員賛成で本件は承認された。

3. 動物実験計画について

（1）受付番号：2014年度 第1号

- ・ 申請者名：保健福祉学部 栄養学科 清末達人 教授
- ・ 研究課題名：ラットの解剖
- ・ 審査結果：承認

（2）受付番号：2014年度 第2号

- ・ 申請者名：保健福祉学部 栄養学科 清末達人 教授
- ・ 研究課題名：ラット消化管摘出標本を用いた糖の消化・吸収実習
- ・ 審査結果：承認

以上

記録 小川 尚